

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援あえる浜北		
○保護者評価実施期間	R7年11月1日		～ R7年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	R7年11月1日		～ R7年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年1月9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達が安心して活動に集中できる環境設定	子ども達が目の前の活動に集中できるよう、必要なものを必要な分だけ提供している。タイマーや絵表示などを用いて様々な子どもたちが理解できるよう視覚・聴覚による支援アプローチを行っている。	状況に合わせて支援アプローチを除き、支援がなくても『自分でできる』を目指せる環境にしていく。
2	子ども達に分かりやすく明確化されたプログラム	活動の切り替えをタイマーを用いて行っている。朝の会にて絵表示を用いながらプログラムの話をし、子ども自身が見通しを持って安心して過ごせるよう工夫している。	子どもたち一人ひとりの様子見合わせて必要な支援を行い、より子ども自身でプログラムの参加や日常生活に活かしていくようにしていく。
3	1人ひとりの子どもに合った個別支援	1人ひとりの様子に合わせてトークン票の活用、視覚タイマー、行動絵表示を活用し、子どもが『今何をするのが良いか』が分かるようにしている。	1人ひとりに関わる中でその子の良い部分、苦手な部分、必要な支援を明確にし、PDCAサイクルにあてはめて支援を確立していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日頃の支援、活動の見える化	SNSを行っているが、日々の支援、準備に注力していて怠ってしまっていた。	情報発信ができるよう業務の見直しを行い、無理なく行える仕組みにしていく。
2	避難訓練等のマンネリ化	『集まる』『避難(移動)する』ことに注力しているため、内容がマンネリ化してしまっている。	様々なパターンを想定した訓練を行っていく。そのうえで訓練中に起きた困りごとを次の訓練へとつなげ、有事の際に安全に避難できる体制を整えていく。
3	地域の児童と触れ合う機会が少ない	日々の支援、プログラムに注力しているため、物理的な観点を含め、地域の児童と触れ合う機会を作ることが難しくなっている。	可能なやり方で地域の児童と一緒に遊ぶ機会を確保していきたい。